

④ タマネギを育てよう

追肥の量や時期に注意

タマネギはユリ科の野菜で中央アジア原産。冷涼な気候を好みます。煮物やスープ、サラダなどに幅広く使え料理を引き立て、血液をさらさらにする健康野菜です。

1. 品種

早生種を選びます。種から栽培する場合は9月10日から20日ごろに播きます。極端な早まきは抽苔（ネギ坊主）や分球するので播種の適期を守ります。

2. 畑の準備

植え付けの2週間前までに1平方メートルあたり苦土石灰100グラムを施し、土をよく耕します。その1週間後に、1平方メートルあたり堆肥2キログラム、化成肥料（成分14・14・14）100グラム、リン酸肥料を50グラム施して耕し、140センチ幅の畝（床幅80センチ、通路幅は60センチ）を作ります。

3. 定植方法

1月上旬から中旬に苗を植え付けます。苗は、細すぎず太すぎない根元で5～7ミリ程度（鉛筆の太さ）の太さで、3センチ程度の深さの植穴に植えます。根は植える前に2センチ程度の長さに切っておくと植穴におさまりやすくスムーズに定植できます。株間、条間とも15センチで、5条に植えます。

4. 追肥

1月上旬と2月上旬に2回追肥します。追肥用の化成肥料を1回につき1平方メートルあたり20グラム施します。肥料の与え過ぎや収穫が近い時期での追肥は、貯蔵中の腐れや傷みの原因となるので気を付けましょう。

5. 除草

タマネギは、生育期間が長く雑草の発生が多くなるので、こまめに草取りをしましょう。穴あきの黒マルチを使うとよいでしょう。使用しても、開口部に雑草が生えますので発生したら取り除きましょう。

6. 病虫害防除

アザミウマ、べと病、白色疫病が発生します。発生したら農薬を散布しましょう。

7. 収穫

翌年の4月中旬から下旬に収穫します。葉が倒れたら収穫のサインです。倒れて1週間後に収穫します。天気の良い日に手で球を掘り取ります。貯蔵する場合は、5個程度をひもで結んで日陰にさおだけなどに吊り下げます。



（鹿児島市都市農業センター）

令和2年11月12日（木）／南日本新聞